



赤塚公園自然発見ウォーキング2002

赤塚自然観察会とワークショップ

「赤塚公園これからを考える」

都立赤塚公園は緑がいっぱいの公園です。ここには、崖やわずかな湧水があり、いろいろな生き物も生息している自然が豊かなところですよ。

今年の自然発見ウォーキングは、午前は観察会。みんなの目で自然のヒミツを探り、くわしい人に教えてもらいます。落ち葉の種類がわかるシートも持って。午後はそれぞれが発見した「ここがよかった」こと、「どうしてなの？」などの疑問、「こんなだったらいいな」希望などを話し合います。

- 2 日時： 11月2日(土) 10:00～16:00
- 3 集合場所：新高島平駅改札口
- 4 内容
 - 10:00～12:00 観察会
 - 12:00～13:00 昼食
 - 13:00～15:00 ワークショップ「赤塚公園のこれからを考える」
(会場：赤塚5丁目集会所を予定)
 - 15:00～16:00 懇親会
- 5 持ち物
弁当、水筒、あれば双眼鏡、ルーペ、図鑑、カメラ
- 6 参加費 200円(保険料、資料代)

どうなる？「バッタ広場」

草刈りしない場所を柵で囲ってから2年5ヶ月たちました。バッタ広場という看板をつけてから柵や看板を壊されることがなくなりました。バッタ広場の趣旨を分かってもらえたようです。でも犬の糞は相変わらず多く、ポリ袋に入った糞も結構ある。犬は毎日おきまりのコースを散歩するので、中に糞がいっぱいあっても、同一人物の可能性が大きい。会に対する嫌がらせとも思えません。ごく少数の飼い主のマナー違反が、公園を愛する人たちに不快な思いをさせていることは確かです。いずれにせよ 公園利用者にもバッタ広場が認知されているように思われます。

14年3月のフィールドワークで、講師の三島次郎先生の、「バッタ広場はすごくおもしろい。木の芽生えがいっぱい出て、しばらくするとバッタ広場じゃなくなりますよ。」の言葉通り、人間の手が入らなくなって、自然がどんどん変化しています。

この春から夏にかけて、木の何本かは2m位に伸びました(1年で1m程成長した)。まわりの樹林地にはいろいろな木が生えているのに、バッタ広場はエノキが圧倒的に多く、次がアカメガシワ(まわりにはアカメガシワはない)。都会でありながら自然の様々な姿や変化を見、体験できるフィールドの出現に私達は感動し、この貴重なフィールドをフルに活用したいと思います。喜んでいるのは私達だけではありません。虫取り網をもった親子の姿もよく見られます。



平成13年9月(1年6ヶ月後)



平成14年5月(2年1ヶ月後)。春が来てようやく草木が伸び始めた頃。



平成14年7月(2年4ヶ月後)。手前はイノコズチだが柵沿いにエノキの成長が目立つ。

平成12年度は観察会だけでしたが、13年度から大東文化大学環境創造学部島井誠司先生の指導を受けて、植生調査を実施しています。14年度から10m四方に黄色い目印をつけました。詳しい調査をするためです。

バッタ広場2年5ヶ月の変化

- 柵が出来た年は帰化植物のオオアレチノギク、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギが目立ったが、翌年から減少した(こういう植物は裸地に真っ先に生えると本には書いてあった。つまり草を抜いたり、刈ったりすると余計生える)
- ありふれた野草は種ができるまでに刈り取られる運命にあるが、バッタ広場では草の一生が観察できる。また早くも遷移の様子が見られる(イネ科植物が増え、そして最終的には樹木へ)
- 昆虫の種類や個体数については、草刈りされた場所と比べ格段に多い。肉食のカマキリや、草原性のナガコガネグモもあちこちに見られる。冬は草の実や虫を食べに野鳥が来る。



今後の課題と期待

- ゴミはいつも片づける(月1回の観察会にはゴミ拾いと柵等の補修をする)。当たり前のことだが、清掃と修理は自然保全活動の第一歩。
- 自然の変化を調査する
都会の真ん中であって、草地の自然復元という貴重な実例となっており、変化をしっかりと記録したい。芽生えた木の樹種・直径と高さの調査は、この夏はあまりの暑さに途中で挫折したが、続けて実施する。
- 環境学習に活用する
バッタ広場は、エコポリスセンターの子供向け観察会ははじめ、さまざまな観察会に利用されている。この調査で得た結果を生かし、地域の小中学校に、草地の自然学習を提案し、活用していく。
- 学校に呼びかけて、子供達が参加できる草遊びなどのプログラムを提案していく。
- バッタ広場が将来どうあるべきか勉強会を開き、考える。

公園用地なので、自然に任せた状態がいつまで続けられるか保証はありません。手を加えない自然を汚いと感じる人も多し、その感情は理屈ではないからです。バッタ広場から、私達はいろいろなことを発見し、考え、学びました。一般の利用者にとっても新たな発見があったはずです。生き物でにぎわうバッタ広場の価値を見いだしてもらい、少しでも自然を取り戻していくきっかけにしたいと願っています(坂本 郁子)

赤塚城址公園の昆虫調査

その1 夜間昆虫調査 7月20日(土曜日)

夕方、ヒグラシ、ニイニイゼミの声を聞きながら、昆虫調査の準備。蜂蜜、焼酎、酢などを混ぜた虫寄せの秘薬をスポンジに含ませて虫の集まりそうな林の木々に巻いて歩きます。また白いシートを張り、ブラックライトを点灯して、ビールを飲んで暗くなるのを待ちます。

暗くなるとブラックライトの光が当たるシートには虫が集まり始めます。オオシマカラスヨトウ多数、コフキ

コガネ多数、コクワガタ、ナガゴマフカミキリ、ドウガネブイブイ、トウキョウヒメハンミョウも。

秘薬つきスポンジを、巻いた林の木には、コフキコガネが多数、ナナフシモドキ、板橋区ではこれまで確認されていなかったハネナシコロギス。なんとノコギリクワガタまでやってきました。赤塚公園にはノコギリクワガタまでいるとはおどろきです。



夜の林は虫たちの世界でした。ライトで照らされたりして虫たちには申し訳ないことをしたように思いました。虫たちは種類を確認後、放しました。それにしてもまだまだ色々な虫たちがいますね。板橋区に残されたこういう林は本当に大切です。(13人参加)

その2 バッタ広場の昆虫調査 8月24日(土曜日)

バッタ広場は、草を刈らなくなって、2年ぐらいたちますが、その間に柵の周りに沿ってエノキが多数生えている。手を加えないでいると、自然が変化していく様子の最初を、見ているようで、とても興味深い。他に目立つ木はアカメガシワです。

草はイネ科植物が目立ち、イネ科植物をエサとするバッタがたくさんいます。1番数が多いのはショウリョウバッタ。メスはかなり大きい、幼虫は羽がないという事を知りました。また同じ親から緑色の子と茶色の子が生まれるそうです。環境が変化しても保護色となって生きるチャンスが増えるという事です。

イナゴはコバネイナゴがいました。イナゴは私が子供のころ、田んぼにたくさんいて獲って炒って食べました(私はイナゴとドジョウは食べられませんでした)。その後農薬を使うようになってイナゴは田んぼからいなくなりました。

イナゴの顔はちょっと角ばっていてごつく、この顔は仮面ライダー型、ショウリョウバッタやオ

ンブバッタの顔は、尖って細いので、ネズミ男型というのだそうです。

かなり珍しいと言われる、ヒメクサキリも発見。マメコガネ、シロテンハナムグリなどがいて、コガネ虫の類は葉を食べるときは、葉に点々と穴を開けて食べるのが特長とか。カマキリはオオカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、4種が確認されました。これだけカマキリがいるということは、カマキリの餌となるバッタなどがたくさんいるからでしょうか。

チョウはイチモンジセセリ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、トンボはウスバキトンボ多数、シオカラトンボも結構います。せみの声はアブラゼミ、ツクツクホウシ。

また一番すごいと思ったのは、ジムグリを見たことです。ここ数年家の近くではヘビは見えていないのに、ここではちゃんとヘビが生きていてほっとしました。こんな小さいバッタ広場でも、そのままの手を加えない自然に



は、ジムグリも、バッタもカマキリもチョウも、トンボもたくさん生きていけるのですね。こういう場所がもっと増やせるといいですね。(12人参加)(瀬田政江)

乗鞍高原の自然を訪ねて

9月7, 8日乗鞍高原の初秋の自然観察会に参加しました。私は初参加でしたが、会で訪れるのは2回目。総勢7名による観察会となりました。

新宿7時02分、あずさ81号で出発、乗鞍高原には予定通り11時30分到着。今宵の宿ペンションチムニーに荷物をおき、この日はご主人の福島さんの案内による「乗鞍自然学校」です。

ルートは三本滝から入る自然観察路で、前半は三本滝から虹のつり橋を渡り、小大野川に沿って鈴蘭橋まで歩く原生林の散策でした。ダケカンバの細い幹の林が終わるところで、福島さんの最初の説明が始まり、手の入った森から原生林の中に入ったことを知ります。

少し進んだところで、枝々に白い長いひげをいっぱいまとって枯れている木の話。針葉樹に寄生するサルオガセに養分を吸い取られて昨年枯れたのだそうです。その先の二枝だけひげを下げた木も、同じように直に枯れるでしょう。これも自然の営み。若木に光を与え、養分となって森の循環が繰り返され、大自然は保たれていくのでしょうか。

ヒガラのさえずりを聞きながら横道に入ると直ぐに三本滝に着きました。原生林に囲まれて落ちる美しい三筋の、なんとも心を洗われる滝です。滝壺の先では岩陰に潜むイワナを見ることができました。野麦(笹の実のこと)、梓の木、なぜコマクサがなくなったか、等々の興味深い話は、ただ歩くだけでは得られません。溪谷沿いには、ウメバチソウ、トモエシオガマ、ホタルブクロ、アキノキリンソウ、マツムシソウ、たくさんの美しい花々と出会うことができました。大自然に触れ、



説明を受けながら、一時間ほど歩いて鈴蘭橋に到着。

後半は、高天ヶ峰や剣ヶ峰など五山の眺望と山々を映すという牛溜池から水芭蕉の群落をまわって休暇村前まで。牛溜池は、雄大な剣が峰などが雲に隠されて、逆さの姿はありませんでしたが、木々の緑を映す湖面はとても長閑で、トンボが飛び交い、水辺ではオニヤンマ(?)が懸命に泥に

卵を生んでいました。

この水芭蕉の大きさにはびっくりしました。可憐さがイメージにあった私には、1mもの葉のある巨大な群落はなんとも異様でした。もともと土地が肥沃なためとの説明でした。尾瀬でもオシッコの流れ込むところはすごいと武さんも教えてくれました。

宿の食事は、おいしい料理でいっぱいでした。食卓には観察会の途中で福島さんの採ってくれたキノコが載り、その味と香りに舌鼓を打ちました。名前は忘れましたが、大根おろしの辛さと合って、これぞ絶品とみなさんご満悦で、おかげでお酒も進みました。温泉に入り、お腹はふくれ、散策の程良い疲れも加わって、ぐっすり眠りました。

翌日は、すがすがしい高原の空気を胸いっぱい吸いながら、一の瀬牧場です。昨年11月に体験した草原管理の結果を見に行きました。シラカバを伐採し、レンゲツツジの群落を呼び戻すための活動に参加したものです。

果たしてその結果ですが・・・広い牧場を、もっとあっちだ、そっちだと探して、みんな感慨深げ。1m程度の高さで切ったのは萌芽を押さえるための試みでしたが、切った時期が遅かったためか多少脇芽が出ていました。でも、こころなしかレンゲツツジの株も大きくなったようで。昨年大活躍した植田さんや森さんにも見てほしかったとのつぶやきも聞こえました。記念の写真を撮って牧場にお別れしました。

私は、このような自然観察会は初めてでしたが、とても楽しい体験でした。これからも自然との関わり方を、こんなふうに自然に直接触れ、身体を通して教えてもらう必要を感じました(飛田 順)。



乗蓮寺下の自然池が悲惨

乗蓮寺の下の湧き水が溜まったビオトープにザリガニが入ったという報告が6月11日入りしました。

早速リタイヤ組で対策に乗り出しました。ここはわずかな湧水が流れ込む小さな水たまりです。一般の観察会では入らないようにし、生き物たちがほっとする場所として位置づけていました。水草が繁茂する浅い小さな池は、いったんザリガニやキンギョが入れられてしまうと捕獲がむずかしくやっかいです。特製の網でも捕獲できない日も多く、これまでの捕獲数は、6月20日にはザリガニ6匹、キンギョ1匹、7月22日には18匹、7月18日は11匹、いずれも大きなザリガニです。いたずらでしょう。6月には網を入れるのにじゃまだったほどの水草(藻)はあっという間になくなり、水中をのぞくと泥だけ(写真の手前の植物はドクダミ)、ザリガニ(キンギョも同じ)はかくのごとく、食欲旺盛なのです。



みなさん、ザリガニはかわいいですが、ビオトープと両立しません。声を大にして言いたい。

徳丸が原公園ビオトープの近況



流れがあったところに保育園ができています(仮園舎)



5月に水際に生えているヤナギを枝ためて、柵に沿わせて止めたところが、結構見られる生垣風になっていました。

荒川の鳴く虫観察会で なぜかマツムシを聞く(9月14日)

マツムシを飼っている田島さんが、マツムシをもって来ました。ほとんどの人にとって、はじめて聞く澄んだ声でした。もちろん荒川のカンタン、ヒロバネカンタン、コオロギなどの音色もたっぴり聞きました。釣巻さんのライトトラップに集まった昆虫は少なかったようです。

活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

10月運営委員会 日時：10月4日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

11月運営委員会 日時：11月1日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日時：11月15日(金)17:30~ 場所：エコポリスセンター

活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、その後必要な修理等の管理を行います。観察会は原則として雨天も実施します。

自然観察ルートの下見観察会&ゴミ拾い

11月2日に実施する自然観察会のルートを歩いて、赤塚公園の見所、好きなところ、こうなったらいいな、というところを見て歩き、午後は観察会の結果をもとに配布資料やマップを作成します。欲張ってコースのゴミ拾いもします。

日時：9月28日(日)10:00~16:00

集合：新高島平駅改札口(お間違えのないよう)

午後の集合場所：四葉集会所(四葉2-9-16)

持ち物：筆記用具、

水路の点検とザリガニ捕獲(雨天は延期)

日時：9月29日(日)10:00~12:00 集合場所：赤塚トンボ池

持ち物：長靴、虫除け薬、タオル、

自然観察会・ワークショップ打ち合せ

日時：10月4日(金)18:30~20:00 場所：エコポリスセンター

9月の観察会のまとめをもとに、資料原稿を作成します。

自然観察ルートの下見観察会&ゴミ拾い

他の人に紹介したいポイントの写真をとります。(当日会場で展示します。詳細は表紙)

日時：10月27日(土)10:00~12:00

集合：新高島平駅改札口(お間違えのないように)

持ち物：カメラ、筆記用具、

バッタ広場植生調査に参加できる方ご連絡を：坂本(勤)(3579)2598

ザリガニ対策班募集

活動日は平日です。連絡先：森(5998)1149

ホームページを手伝ってくださる方ご連絡ください。